

西東京市公民館は6月1日から再開しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新しい生活様式における公民館の利用について、ご理解、ご協力をお願いします。(裏面をご覧ください。)

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



養老畑碑
安政年間(1854~59年)の建立と推定される碑。かつては養老畑のあった、現在の田無神社の裏手付近に建てられていた。下田家が援助した村の医者、質屋玄雪による書。(画像提供:西東京市教育部社会教育課)

下田半兵衛富宅の木像
富宅が58歳の時に、養子の三右衛門富潤によって作成された木像。厨子の扉には、富宅の功績が漆書きされている。(画像提供:西東京市中央図書館地域・行政資料室)



天保十三年「差出申議定一札之事」(冒頭部分)
天保13(1842)年に、下保谷村の村民一同で、名主清左衛門へ連見家の名主役永続を願い出た文書。村内110家当主による連印がある。(画像提供:西東京市中央図書館地域・行政資料室)

特別紙面講座

ふるさとむかし探訪

第二回

金持ちは意地悪だったのか?

〜名主の役割と村・村民〜

行田 健晃

名主と村の関係

名主になる家が固定する

前号では、農民の中に裕福な人々がいたこと、その中には名主になる者がいたことをお話ししました。名主は村の代表であり、村の年貢を取りまとめて納める責任を負うとともに、その地を治める代官との連絡役を務めることなどを仕事としました。しかし、どうでしょう。昔話ではお金持ちは意地悪な存在として描かれがちです。そんな彼らが武士ともつながる村のお偉いさんでもあったとしたら…?

誰が名主になるのか。これについて、すべての村に共通するルールはありません。ただし、江戸時代の初めごろには、村の開発にかかわった家の子孫が名主になる場合がありました。例えば上保谷村には、「保谷六苗」とよばれる保谷家など六つの有力な家が村をひらいたという伝承があり、「保谷」の由来とも、村の名主はその家の子孫たちが交代で務めました。さらに、村は三つの小村に分かれており、それぞれに名主がいました。また田無村・下保谷村も同様で、当初は由緒ある複数の家が交代で名主を務めていました。

ところが、田無村と下保谷村では名主になる家が途中から固定したことが記録からわかっています。両村とも一八世紀頃には一つの家(田無村は下田半兵衛家、下保谷村は連見清左衛門家)のみが名主になるようになったのです(江戸時代の農民も、公式に名乗れなかっただけで苗字自体は持っています)。この二家はいずれも幕末に幕府に献金をした家であり(前号参照)、余裕があることがうかがえます。つまり、この二村では江戸中期から「お金持ち」が名主を世襲するようになったのです(ただし、両家とも古くからある家でもあります)。

名主の人物像と仕事①

一 田無村名主・下田家

下田家は江戸時代中頃から商売によって力をつけた家で、当主は代々半兵衛を名乗りました。家の記録によれば、質屋や水車稼ぎを行っていたようです。貸金業である質屋は安永五(一七七六)年に始めた記録があるのですが、この頃にはすでに生活に余裕があったと考えられます。水車稼ぎは、自分の屋敷内に引き込んだ玉川上水の分水路に水車を設置し、米や小麦の精白・製粉を行って江戸へ出荷するもので、大きな利益を生みました。一八三〇年代には京橋に出店し、江戸での販売も直接手掛けていたようです。

家の鷹場(将軍や大名が鷹狩を行う場)を管理する尾張家の役人(鳥見)の陣屋があったのですが、この施設は三〇〇坪(約一〇〇〇平方メートル)ありました。連見家は代々、この陣屋の番を務めました。

また、連見家には江戸時代の代表的な読み書きの教科書である『庭訓往来』の写本をはじめ、『論語』などの漢籍や和歌集、天文学や医学に関する書籍が残っており、村をまとめる家にふさわしい高い教養が垣間見えます。連見家の名主としての仕事ぶりをも具体的に示す記録としては、寛政一(一七九九)年に作成された年貢立て替えのための借金証文があります。この記録からは、生活が厳しい農民に二〇家の年貢を連見家がほぼ同時に立て替えていることがわかります。以上、両家の史料からは、裕福で教養が深く、村民のために働く名主像が描けます。

金持ちは意地悪だったのか

さらに言えば、この話は名主にだけに留まりません。江戸時代の村には、年貢が払えなくなっただけに出た場合に他の家がそれを力バする「五人組」という仕組みがありました。貧しい農民の生活危機は、裕福な農民にとっても決して無縁なことではなかったのです。したがって、江戸時代は、富める者が貧しい者を助けることを当然のこととする社会であり、「金持ちは意地悪ではなかった」と言いきれないまでも、意地悪をしづらい仕組みになっていたといえます。

名主世襲の実際

実は、江戸時代の名主の決まり方の変化は、一つの家の世襲から複数の家による交代制へとこの形が一般的でした。それでもこの二村が逆の変化をしたのは、「この家が名主を務め続けた方がよい」という村民たちの意思があったからでしょう。

江門時代の村は、一つの家がダメなら一族や五人組が、それでもダメなら名主が生活を保障するといった、助け合いの多重構造を持っていました。しかし、生活環境の厳しいこの時代、農民の中には助け合いの網からこぼれて土地を失い、富裕な農民の小作人になった人や、村を離れていかざるを得なかった人がいたこともまた、事実です。

村の限界とこぼれ落ちる人々

そして、困窮した農民たちは大きなうねりとなってこの地に押し寄せます。今回は、幕末にこの地域を揺るがせた大事件についてお話ししましょう。

あとを受けた養子の富宅も、私費を投じて村の鎮守である田無神社を再建したほか、自らの土地の一部を「養老畑」とし、獲れた作物を換金して困窮者に施しました。そして、実際に生活が成り立たない農民がいれば、その救済にも尽力しました。

名主の人物像と仕事②

一 下保谷村名主・連見家

連見家の当主は代々清左衛門を名乗りました。連見家の敷地内には一八五村に及ぶ尾張徳川

家の鷹場(将軍や大名が鷹狩を行う場)を管理する尾張家の役人(鳥見)の陣屋があったのですが、この施設は三〇〇坪(約一〇〇〇平方メートル)ありました。連見家は代々、この陣屋の番を務めました。

また、連見家には江戸時代の代表的な読み書きの教科書である『庭訓往来』の写本をはじめ、『論語』などの漢籍や和歌集、天文学や医学に関する書籍が残っており、村をまとめる家にふさわしい高い教養が垣間見えます。連見家の名主としての仕事ぶりをも具体的に示す記録としては、寛政一(一七九九)年に作成された年貢立て替えのための借金証文があります。この記録からは、生活が厳しい農民に二〇家の年貢を連見家がほぼ同時に立て替えていることがわかります。以上、両家の史料からは、裕福で教養が深く、村民のために働く名主像が描けます。

<表1> 各部屋の変更後の定員

柳沢		田無		芝久保	
部屋	定員(人)	部屋	定員(人)	部屋	定員(人)
第1会議室	12	実習室	25	創作室	12
第2会議室	12	第一学習室	9	第1学習室	12
第3会議室	12	第二学習室	13	第2学習室	9
視聴覚室	40	集会室(和室)	15	和室	12
工作室	15	視聴覚室	30	視聴覚室	25
		会議室	9		

谷戸		ひばりが丘		保谷駅前	
部屋	定員(人)	部屋	定員(人)	部屋	定員(人)
学習室	18	集会室	35	集会室	30
講座室	12	講座室1	12	第1学習室	10
和室	12	講座室2	9	第2学習室	18
視聴覚室	35	講座室3	12	第3学習室	10
創作室	15	和室	12	第4学習室	5
		小会議室	6		

新しい生活様式における公民館の利用について

「新しい生活様式」における西東京市公共施設(貸館等)利用基準に基づき、公民館の利用方法を見直しました。新型コロナウイルス感染症予防のため、ご協力をお願いします。

【部屋の定員の変更】

社会的距離を確保して活動していただくために、部屋の定員を見直しました。各館各部屋の変更後の定員は左表のとおりです。

【外気を取り込めない部屋の利用の制限】

当面、外気を取り込めない部屋は利用できません。

※ひばりが丘公民館小会議室が該当します。

【利用にあたってご協力をお願いします】

「いつか」

①自宅での検温にご協力ください。発熱や体調不良の場合等は来館をご遠慮ください。

②マスクの着用、咳エチケット、手洗い・手指消毒にご協力ください。

③2メートル(最低でも1メートル)の社会的距離を確保し、感染予防に配慮した活動にご協力ください。

④活動後の利用箇所の消毒にご協力ください。

中央図書館・田無公民館耐震補強等改修工事基本設計完了に伴う説明会

中央図書館・田無公民館は築45年が経過しており、施設の劣化が見られることから、令和3年度に耐震補強等改修工事を予定しています。

定めています。工事の基本設計が完了したので、左記のとおり説明会を行います。ご都合のよい回にご参加ください。

第1回 7月31日(金) 19時~20時

第2回 8月1日(土) 10時~11時

第2部 13時~14時

第3部 16時~17時

田無公民館

定場 各回25人(申込順)

申 7月20日(月) 10時から電話で田無公民館へ

令和2年度 公民館市民企画事業

公民館市民企画事業は、市内の自主グループが企画・運営する事業を、審査の上、自主グループと公民館の共催事業として実施するものです。講師料は公民館が支払います。今年度の予定は下表のとおりです。

この制度を利用できるのは、その年度の説明会に参加した自主グループです。利用を考えている自主グループは、説明会に必ずご参加ください。

今年度は5月31日(日)まで臨時休館していたため、第3期から申請を受け付けます。

第2回説明会

申し込みが必要です。

【昼間】

時 7月8日(水) 10時~

場 柳沢公民館

【夜間】

時 7月9日(木) 19時~

場 柳沢公民館

【第3期】 電話で柳沢公民館へ

第3期の申請受け付けについて

第3期に申請する自主グループで、説明会に参加していない自主グループは、第2回説明会に必ずご参加ください。

【実施期間】

<表2> 説明会

※事前に申し込みが必要です。

※変更になることがあります。各回、公民館だよりでお知らせします。

	日時	場所
第2回	昼間 7月8日(水)10:00~	柳沢公民館
	夜間 7月9日(木)19:00~	柳沢公民館
第3回	昼間 9月10日(木)10:00~	保谷駅前公民館
	夜間 9月11日(金)19:00~	柳沢公民館

<表3> 実施期間・申請期間

	実施期間	申請期間
第3期	10月1日(木)~12月27日(日)	7月15日(水)~7月28日(火)
第4期	令和3年1月5日(火)~3月12日(金)	9月29日(火)~10月6日(火)

おたのしみ川柳

今月のお題「家」

・かたづけけるチャンスが増えた家の中 稲生良夫

・家ローン終えりや在宅介護の身 ひばり

・想い出がしみついた家宝物 涌井テル子

編集室では、みなさまの投稿をお待ちしています。

氏名・住所・電話番号を記入の上、お近くの公民館に郵送、メール、持参でお寄せください。

9月号のお題「潔」です

締切 7月22日(水)

10月1日(木)~12月27日(日)

【申請期間】

7月15日(水)~28日(火)

※平日9時~17時に受け付けます(土・日、祝日、夜間は除きます)。

サークルから 会員募集

西東京市山岳連盟・土曜山行会

月1回土曜日ほか/近郊から東北、甲信越の山/入会金1000円・月額4000円

9月1日号の原稿締め切りは、7月20日(月)です。

公民館運営審議会

傍聴をご希望の方は、事前に申し込んでください。

時 7月22日(水) 18時半~

場 柳沢公民館

申 事業計画報告について電話で柳沢公民館へ

君と生きる

コロナ時代の多文化共生 山辺真理子

(NPO法人西東京市多文化共生センターNIMIC代表)

「なぜ6歳で小学校? もう少し日本語が上手になってからではダメ?」「IT企業の作業でお客さんと会うわけではないのに、どうしてネクタイをしますか?」「娘の誕生日は4月32日?」日本語ボランティア教室で出会った外国出身の友人たちとの会話は、社会や固定観念について考えさせ、多文化共生をライフワークにすることに繋がった。

この地に暮らして30年余り、活動の始まりは日本語ボランティア教室の立ち上げだった。そこから25年、現在市内には12余りの独立した教室があり、年齢、母語、国籍、仕事など多様な人々が集まる。まさに「多文化共生の最前線」といわれるゆえにある。

西東京市の外国籍住民は約5300人、73の国や地域から留学や仕事などさまざまな理由で来日している。日本語も日本の習慣にも違和感なく暮らしている人もいれば、日本語に不自由し必要な情報にアクセスできない人もいる。彼らとかがわかる中で、複数ある教室情報を市の公施設で配布してもらうために、日本語ボランティア連絡会を始めた。その後、多言語相談窓口や広く市民を対象とした交流事業を実施するためNIMICを立ち上げた。その時々に見えてくる課題を少しでも解決するために、その時々に出会う人たちと仲間になりネットワークを築いてきた。今年も200人を超える会員の力でさまざまな交流事業を企画していたが、対面の事業はほとんど中止に追い込まれ、多言語相談窓口は、電話対応を中心に各種情報の多言語翻訳などの支援活動を継続している。

今できることは、オンラインでつながり声を掛け合うこと、難しい相談は専門家グループにつなぐこと、活動継続のための体制を見直すことなど。新しい日常という人と人を隔てる状況が改善するまで、みんなで工夫しながらつながりを実感できる小さな活動を続けていきたい。

季節の花 : ツククサ

朝露に濡れて鮮やかな青色に咲くツククサは、昼頃には萎んでしまう半日花です。梅雨時から秋頃まで次から次へと咲き続けます。ミッキーマウスの耳に似た花弁の青い花汁を布にこすりつけて染めたことから万葉集に「つきくさ」として詠まれています。色はすぐに落ちますので、花を摘んでお子さんと色水遊びをして楽しんでみてはいかがでしょうか。蜜を持たない花ですが奥深い花です。6本の雄しべを見ると、配置位置と色・形が違います。先端の長い2本、一番奥の「X」形の黄色い3本、その中間の「人」形の1本と3種類ありますが、花粉をもつのは先端の2本だけ。一番奥にある目立つ黄色の3本で昆虫を引き寄せる戦略です。

文・写真 大森拓郎(新町在住)